

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 岩手高齢協ほっともみや (1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協ほっともみや (1F)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮六丁目 14-12		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに合った対応をし、楽しい生活を送られている。 ・利用者、スタッフ共とても仲良く元気である。 ・和洋中様々な食事の提供をすることで食事を楽しみにされている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月27日

盛岡市西南部の閑静な住宅地に位置し、2階建ての2ユニットで構成された開設17年目の事業所である。親しみやすい事業所の理念として、「みんなの和・輪・話を大切に」などを掲げ、常日頃から職員の介護知識や技術の向上を図りながら、利用者の状態に合わせ、本人に寄り添った質の高い介護サービスを提供している。特に、事業所と地域との交流が活発に行われ、コロナ禍以前には、中学校や高校、地域有志からのコーラスやボランティアが頻繁に来訪したり、地域住民や公民館活動との積極的な交流が図られ、地域の介護施設として中心的な役割を果たしてきた。更には、利用者や家族の思いをくみ取り、訪問診療の担当医師や訪問看護師との連携のもと、利用者の終末期の看取りを積極的に導入し家族から感謝されるなど、利用者等への親身な介護支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○(1名)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有スペースに掲げ意識するようにしている。利用者さんはホットモトミヤを自分の居場所としており、喜怒哀楽を出せる場所にもなっている。職員は、一人ひとりのその時に対応している。	17年前の事業所開設時に当時の職員全員で話し合っ決めて「みんなの和・輪・話を大切に・・・」とする理念をリビングに掲示しているほか、職員ミーティングや会議の資料に掲載して介護活動の指針としている。利用者一人一人の思いや行動を把握し、希望を叶えられよう日々支援に努めている。	理念を基に、年間又は半年の期間を定めて事業所の活動目標或いは職員個々の行動目標を設定している。管理者と職員との面談を通し、活動等の結果を評価しながら、事業所又は職員全体で具体的に理念を実践することで、更なる質の高いサービスの提供に繋げていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが終息しておらず交流が難しい事もあるが、地域の方々との挨拶や食料品(米や肉など)の定期購入は続けている。	本宮町内会に加入し、可能な時には総会にも出席している。回覧板は回って来ていないが、地区の班長から写しを届けてもらうなど、地域情報入手している。コロナ禍の前には、大宮中学校の中学生の体験学習(5、6人)、盛岡大学附属高等学校のコーラス、地元の有志のコーラスや読み聞かせ活動をするボランティアの訪問もあった。今は、地域からの定期の野菜やお米等の食材の購入、敬老会や各種イベントで公民館をお借りしている。近隣住民に会った時は、お互いに声を掛けあうなど、活発な地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込み等にいらした方の相談は受けている。運営推進会議に出席して下さった方から認知症の方の接し方についてご相談があり対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのクラスターが発生した時には会議を中止していただきました。その後の会議では実際の対応方法などの質問がありお答えした。ご意見をいただいた後に「よくその人数で治めて頑張ったね」とお言葉を頂きとても励みになった。コロナ感染時の経験はこれからのケアに大変活かせる事例であった。	運営推進会議は、市の担当課(介護保険課)、地区自治会の会長2名、民生児童委員4名、会議の度にお問い合わせする3名の利用者の家族で構成し、殆どは対面で開催し会議録も整備されている。委員には消防職員OBがいて、防災についてのアドバイスをもらっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はメールでのやり取りになりその都度対応している。運営推進会議にも出席していただきご意見や情報提供いただいている。	運営推進会議の度に市の担当職員に会っているほか、介護保険の各種申請に市役所に出向いて相談したり手続きを取っている。生活保護受給の利用者(1階と2階を合わせて5名)もいることから、生活保護担当課とも連携が図られている。地域ケア会議はコロナ禍のため、今は開催されていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。身体拘束はしていない。職員のスキルアップの為権利擁護推進委員養成講習に1名参加し入居さんにも協力していただきながら施設全体で取り組んでいる。コロナ感染防止上玄関の施錠は行っている。	身体拘束廃止委員会を3か月ごとに開催し、会議資料の回覧、コピーした研修資料を職員に配布している。身体拘束の事例は発生していない。チャイムも鳴らさず、入ってくる利用者家族があるため、玄関は施錠している。ふらつき等の危険防止を図るため、家族の了解を得て赤外線センサーを1階に1名、2階には3名が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	親子関係が険悪な様子が見られた入居申し込みをされたが、予定を早め入居されている。まだ不穏な状態ではあるが、少しずつ心を開いてくださっている。職員のストレスが、言葉の暴力にならないよう注意し合いながら対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる。権利擁護の研修に参加し職員のスキルアップに繋がっている。家族のいない方には必要な制度と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は説明し納得いただいた上で入居していただいている。ケアマネや周囲の意見が優先になってしまい本人が納得しないまま入居を強行してしまった為に入居がキャンセルになってしまった例が3件あった。		

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族やご本人の希望で終末期の対応をしている。他施設にいた方がこの施設に入居したいとの希望で入居された例や民生児童委員から相談を受け入居された例もある。	利用者と家族の思いを受け止めようと、家族とのラインを両ユニットで個別に開設している。送った動画を見た家族から感謝の声をいただいている。日頃から利用者の行動を観察して思いをくみ取り、ケアに活かしている。家族からは面会時等に管理職またはその時に担当した職員が要望を聞いている。アンケートによる意見聴取は特に行っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度は経営がいつもの年より厳しい状況にあり、改善策等について各事業所と面談し職員の意見を聞いたが、今すぐに改善される問題ではない	毎月1回、1階と2階で全体のカンファレンスを開催し、職員の意見の把握に努めているほか、昨年10月には職員の困っていることを把握するために、職員アンケートを実施している。職員の提案で、コロナ禍でも面会を希望する家族には窓越しで利用者に会えるよう改善したり、炊飯器や湯沸かしポットの購入等の提案に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営難と職員不足が続き前途多難である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部研修に参加しにくくなったためリモート研修に切り替えた。リモート研修をする事で一人でも多くの職員が参加できるようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事で他事業所と交流もでき始めたため今後はお互いに切磋琢磨出来れば良いと考える。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて数か月経過しているが、少しずつは良い関係性になっていように見せかけて実はまだまだ本質を掴めていない方もいる。無理強ひせず入居者さんの行動や言動等で本人の思いの理解に努力している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず施設見学していただき、納得の上で入居していただいている。ご家族の相談にはどの職員でも対応出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネが入居を希望しても本人が望まない為入居を断念した方が3名いた。入居された方がマッサージ師の希望や歩行器のレンタル、エアマットの導入などその時に必要なものを導入している。ご家族が親と会いたくないとの事で会わない方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い知らない方々が共同生活をしている場所である事や、時には気に入らない事が日常茶飯事起きるので、その時に説明し理解していただいている。日常生活上で、出来る事やりたい事をそれぞれのレベルに合わせ参加いただき、また感謝を伝え毎日参加しやすいよう対応している。利用者同士で慰めたり励まし合ったり出来る様になった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には見せない、見せたことが無い姿を私達に見せてくれます。中には驚かれる事例もあるが、ご理解いただけるよう説明している。LINE登録していただき動画配信をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院、川徳ショッピング、友の会参加、友人との会食など、また専属のタクシー利用等コロナ禍でも自由に行動した方がいた。受診はコロナ禍でもご家族にお願いした。それ以外の方は、以前より減少または途切れてしまった方もいる。	コロナ禍前は、馴染みの美容院や習い事に出席したり、以前一緒に過ごした友人が来訪していた。現在、携帯電話を所持している利用者は自由に使用しているほか、利用者の友人にホームに来てもらい、窓越しでも会ってもらえるようにもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が進みやすいような座席の配置や口調の強い方から防御したり、また間に入り仲を取り持ちたりすることで利用者さん同士が仲良く生活出来るようにしている。時にはお互い知らない者が一緒に生活する所だからみんな助け合って暮らしましょうとお願いしている。		

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてしまったが、出先などで声を掛けてくださる方がいてとても感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物、友人と外食、会合の参加等希望に対応している。休みたい方、歩き回りたい方、話をしたい方、それぞれが自分のやりたいことができる。しかし、まだ何をどうしたいのか掴めないでいる方もいる。	日常の何気ない会話や家族からの情報から、利用者の思いを汲み取るよう努めている。本人の特技を勧めても気乗りしない利用者がいたり、針仕事を希望しても思うように出来ない方には、内容を変えたり、職員がサポートして対応する時もある。また、帰宅要求が強い利用者には、娘さんとの外出を計画し、本人の介護プランに盛り込んで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を基に対応しているが、入居されてからその情報と異なる事が多い。その場合、本人の行動や言動から対応する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はそれぞれで、ご自分の意志で行動している。職員がいる事で安心されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度の見直しをし作成している。ご家族は勿論兄弟、友人、かかりつけ医、薬局等関わっている方々にご協力いただき、本人の希望を叶えられるよう対応している。	1階と2階のユニットとも、全職員に書面を配布してモニタリングを実施し、1階は所長、2階は副所長が中心となって取りまとめ、原則3か月に1度、職員が集まって介護プランの見直しを行っている。利用者や家族の意見、医師や訪問看護師の助言も盛り込み、利用者へ説明し、家族には郵送して同意を得ている。職員は、日々の利用者の状況をチャートに記入する際に、介護プランを確認し実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやチャート、申し送りノート等を利用し見直しや対応をしている。面会にいらしたご家族や友人等から情報を得て個別対応している。カンファレンスも利用している。		

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前のケアマネや訪問看護ステーション、医療、ご家族等たくさんの方々のご協力を得ながらその都度対応している。外出時はタクシー会社や友人等をお願いした例もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容・美容、の依頼や敬老会、忘年会お寿司屋さん、外部社中の慰問等で楽しい時間を過ごすことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係はなるべく切らないようにしている。家族受診が出来なくなった場合には他医療機関と連携し受診または訪問診療を行っている。本来は、受診はご家族対応だが、職員が対応する場合もある。	かかりつけ医への受診は家族対応を基本としているが、職員が同行する場合もある。職員対応の場合は、受診結果は家族に電話で報告している。入居前からのかかりつけ医に診てもらっているが、利用者の状態が変わった場合には、相談して訪問医療を行うクリニック等に変更したりしている。現在、訪問診療は、1階で2名、2階で6名が利用している。訪問看護師が週に1回(月曜日)来訪し、適切なアドバイスを得ているほか、歯科受診も必要があれば受診を勧めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、週1回の訪問診療を受けている。緊急時には訪問看護ステーションに指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病状によっては戻って来られない方もいらしたが、戻れる状況の場合にはなるべく早く退院できるよう医療と連携している。骨折で入院された方で、10日で退院できた例もある。		

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても自分で出来る事はやってもらっているが、対応が難しい状況になった場合には他施設と連携し退所に至った方もいた。転倒骨折し施設にて対応している方もいる。今年度の看取りは3名。	家族の希望や利用者本人の不安を医師に伝え、医師や訪問看護師からの指導・助言を得ながら、介護スタッフが出来ることを確認し、利用者を取り巻く関係者が安心して終末期を迎えられるように対応している。また、職員の負担を少なくするため訪問看護師を頼ったり、終末期の不安解消に担当医師からの研修を必要の都度実施し、職員のフォローにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等には必ず訪問看護ステーションに連絡し指示を頂いている。応急手当は出来るが自己判断しないよう注意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナクラスターが発生してしまった為、今年度はまだ全体の訓練は行っていない。広報などで協力をお願いしている。シェイクアウトを行った。スプリンクラー、自動装置の取り扱い説明会を行った。	事業所は、市のハザードマップで浸水地域に指定されているが、市指定の避難所より施設内が安全であると民生委員から話されている。以前の訓練では車椅子で近くの公園まで避難していた。コロナ禍もあり、今年は事業所としての避難訓練を実施していない。9月1日に盛岡市の呼びかけでシェイクアウト訓練(災害発生時の安全確保行動)に参加しているほか、緊急時には地域の人に「利用者の見守り」をお願いしている。	火災、地震、水害等の災害の種類に応じた避難マニュアルの見直しを行い、食糧、防寒具、燃料等の備蓄を進めるとともに、地域の協力を得ながら、夜間や冬期などの避難訓練に取り組まれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を理解しその方に合った声掛けやその場面に合った対応をしている。	高齢者の権利擁護に関する研修を職員が受講し、職員間で情報共有している。また、入浴時に「恥ずかしい」として異性介助を拒否する方には、羞恥心を職員も共感し、プライバシーに配慮した対応に努めている。おむつ交換では本人にその旨を伝え、了解を得てから取り換えるなどの声掛けを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思い等は良く話して下さる。実現出来ない事ははっきり伝えて良い時、悪い時を見極め対応している。何をどうしてどうなりたいのかを聞くようにし自己決定出来る様に促している。言葉が出ない方は表情や仕草、聞き取れる言動等で判断し、こちらから声掛けしながら自己決定出来る様にしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人が好きな場所で好きな事をしている。レクリエーション活動の時には希望者で行っている。当日いきなりの外出希望等の場合には、色々な方に協力していただき実現した。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ない方のみ職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食物アレルギーの方はいらっしゃらないのでとても助かっている。和洋中様々な食事を提供している。食事作りはしていないが、下膳やテーブル拭き、お茶碗拭き等は個々に合わせて手伝っていただいている。	職員が持ち回りで1週間分ずつの献立を作成し、各階の職員手作りの食事を提供している。誕生会は利用者の誕生日に開催し、メニューは本人から希望を聞いている。利用者には何でも食べてもらっているが、洋食系からカレーライス、麺、焼きそば、野菜、果物、酢の物等、栄養バランスに配慮している。1日1回はヨーグルトを提供しているほか、2階では3名がミキサー食としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的に柔らかめの食事を提供している。時にはミキサー食、栄養補助食品等を使用している方もいる。食事量や水分量の把握し、季節や気温・湿度等に合わせ水分摂取量の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず口腔ケアを行っている。声掛けや介助している方もいる。訪問歯科を利用している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	離床出来ない方以外は車椅子の方でもトイレでの排泄をしている。時間で調整するのではなく、排泄のタイミングを見計らいスムーズに出来るよう対応している。	意思表示が難しい利用者でも、ソワソワと落ち着かないなど、いつもと違うなど本人の様子を見て、職員がトイレに誘導し排泄を介助するなど、極カトイレを使用し自立に向けた支援に努めている。排泄チェック表は全員記入し管理している。排泄が自立している方は、1階で5名、2階で3名おり、その他はリハビリパンツ等を利用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	色々な食事の提供をし、水分摂取量等もチェックしながら、なるべく自力排泄を目指している。どうしても無理な方については医療と相談し、下剤を利用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴は毎日行っているが、全員が入れないため2~3日おき位になっている(冬場)。入浴拒否される方については、職員を変えたり時間帯を変えたりしている。入浴時は一対一になりお互いの信頼を深めるチャンスでもあるので、なるべく会話を楽しみながら対応している。	入浴では、1対1になってそれまで聞いたことのない話を聞くことができたり、転倒していないかと全身状態を観察できる機会ともなっている。ドライブなど外出イベントがある日は入浴なしとなる時もあるほか、入浴を拒否する方は、無理をしないで日を置いて対応する場合もある。本人が持参したシャンプーを使ったり、冬至にはゆず湯などする場合もある。「もとみや温泉に行きますか」などと、気軽に声掛けし入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間、起床時間をご本人にお任せしているが、食事時には大体揃っている。座席やソファでのんびり居眠りされたりしてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居される前からの内服の方が多い。調整中の方もいる。薬局と連携し、セットや内服時のダブルチェックを行い誤薬の無いよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もう年だから何もしたくない方。誰かの欠点ばかり探して注意する方。困っている人がいれば優しく接してくれる方。それぞれの方がそれぞれの事をしている。時には全員でゲームをしたり、イベントに参加したりと、その時を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが終息していないので外出等は控えていただいていた。お正月にはご家族と過ごしていたけどこうと考えていたが希望者はいなかった。ドライブ(桜見物、菜の花、紅葉など)をしたり、アイスを食べに出掛けたりはした。7月までは自由に外出した方が1名いた。	コロナ禍の前には、近所への散歩、県立美術館や公園、花見、雫石までアイスを食べにと、外出支援に努めていた。現在は、感染症対策を取りながら、家族の協力を得て外出する場合もあるが、コロナ禍で外出は出来るだけ控えてもらっているのが実情である。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	7月までいらした方は、ネットショッピングや自由に買い物に出掛けたりしていた。現在入居されている方はご家族の希望もあり所持はしていない。本人の希望で代行の支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯を使用している方がいる。自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室は、行動の妨げや事故、怪我等防止のため乱雑にならないように整理整頓している。居室やリビングのソファ、食席や他利用者の居室等好きな所で過ごせる。共有の場所に季節ごとの飾りや写真、花などを飾っている。	事業所内は、オール電化でIH仕様となっている。暖房は蓄熱式を採用し、空気清浄機を備え、夏場はエアコンを使用している。1階と2階のレイアウトはほぼ同一となっている。季節によっては、みずき団子、お雛様、五月人形などを飾ったり、利用者と一緒に作った作品を展示しているが、乱雑さを避けるため、多くのものを掲示することはしていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が訪問し合ったり、一人で過ごしたり、それぞれが自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、冷蔵庫等自由に持ち込める。ご家族の写真やご位牌を持ってきている方もいる。	居室には、ベッド、クローゼット、椅子が用意され、利用者によっては、テレビ、冷蔵庫、位牌を持ち込んでいる方もいる。ドアには部屋を間違えないように目印をつけている居室もある。職員が車椅子を使用して介助する場合にはベッドの位置を変えることもある。居室を清掃できる利用者には手伝ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の好きな所へ行くことができる。2階へ遊びに行く方もいるし、2階から遊びに来る方もいる。職員と一緒に掃除や洗濯干しなど行ってくれる。この役に立ちたいと思っている方が多い。ありがたいことです。		